2-1-8

小田原征伐の「水攻め」にも耐える —— 江戸城北方防備要の「老中城」

5月の定例会「南関東の３城を日帰りバスで訪ねる」

資料①　山岸弘明

忍城復興三階櫓

徳川家康

松平忠吉

松平信綱

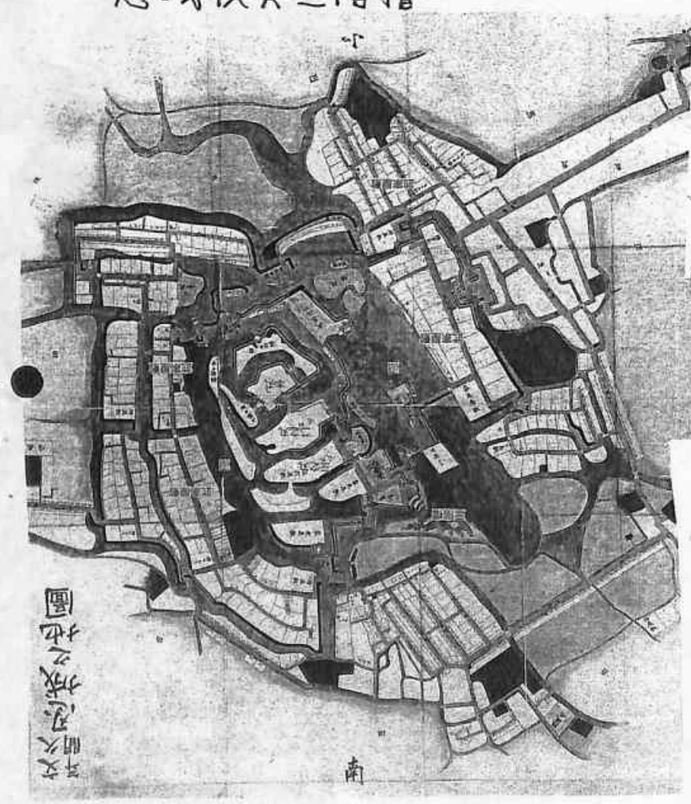
松平家の祖倩器

近世忍城主

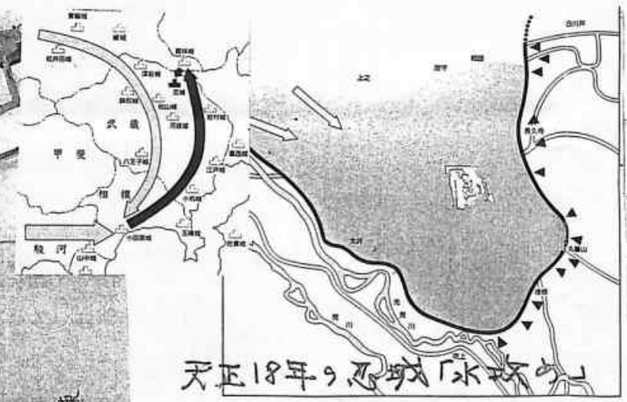
①松平忠吉（徳川家康４男）10万石＝天正20年から
　松平家忠（城預かり）１万石
②在番（酒井忠勝ら）＝慶長５年
③松平信綱（老中）３万石＝寛永10年
④阿部忠秋（老中）、正能（老中）正武（老中）、正喬（老中）、正允（老中）、正敏、正識、正権10万石＝寛永16年
⑤松平忠堯、忠彦、忠国、忠誠、忠敬10万石＝文政６年から明治維新まで（奥平）

石田三成の水攻めに耐えた「忍の浮き城」 —— 忍城のあゆみ

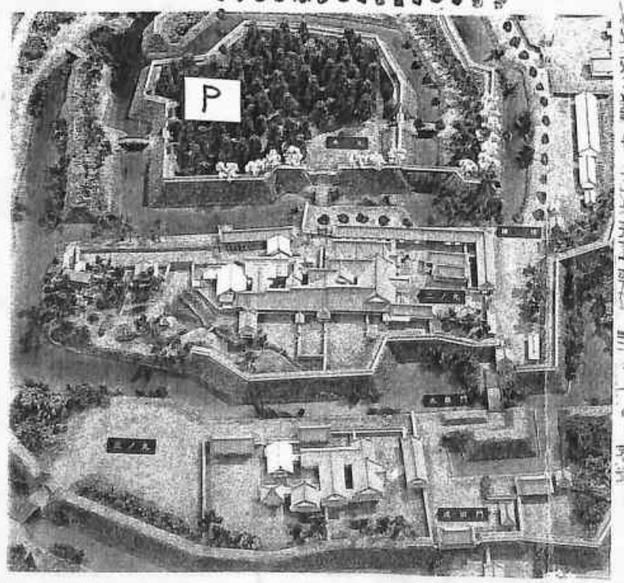
① 忍城は忍沼と呼ばれた広大な湖沼の中にあった島々で形成した文字通りの「水城」、鎌倉初頭在地領主忍氏時代に成立したという。
② 15世紀初頭の応永７年、成田宗時が本格的な水城に大改修した。成田氏は忍城を本拠に北武蔵一帯の強力武士団に成長、はじめ山内上杉、古河公方、足利晴氏、上杉謙信と与し、のち小田原後北条氏と結んで、氏長のころ小田原外様衆最大級の戦力となった。
③ 天正18年（1590）の豊臣秀吉の小田原征伐で氏長ら主力兵は小田原に出陣、わずか３千の留守部隊が守りを固めて持ちこたえた。
　(1)攻め手の石田三成は城の廻りに堤を築いて利根川の水を引き入れたが水に強く、逆に三成の堤は大雨で決壊した。
④ 慶長７年（1603）江戸に幕府を開いた徳川家康は忍城の要害さを重視、江戸城北方の守りの要として、中堅譜代老中家を配した。
　(1)江戸時代は酒井５万石、松平大河内３万石、阿部５万石、松平奥平５万石で明治維新を迎えた
⑤ 明治６年廃城、建造物のすべてが取り壊され、水濠も明治以降次々に埋め立てられて姿を消した。
　(1)今日外濠の一部が「水城公園」として残り、本丸跡は博物館で、元３の丸に上げられていた御三階櫓などが模擬復元されている。また土塁は博物館、諏訪神社に一部が現存している。



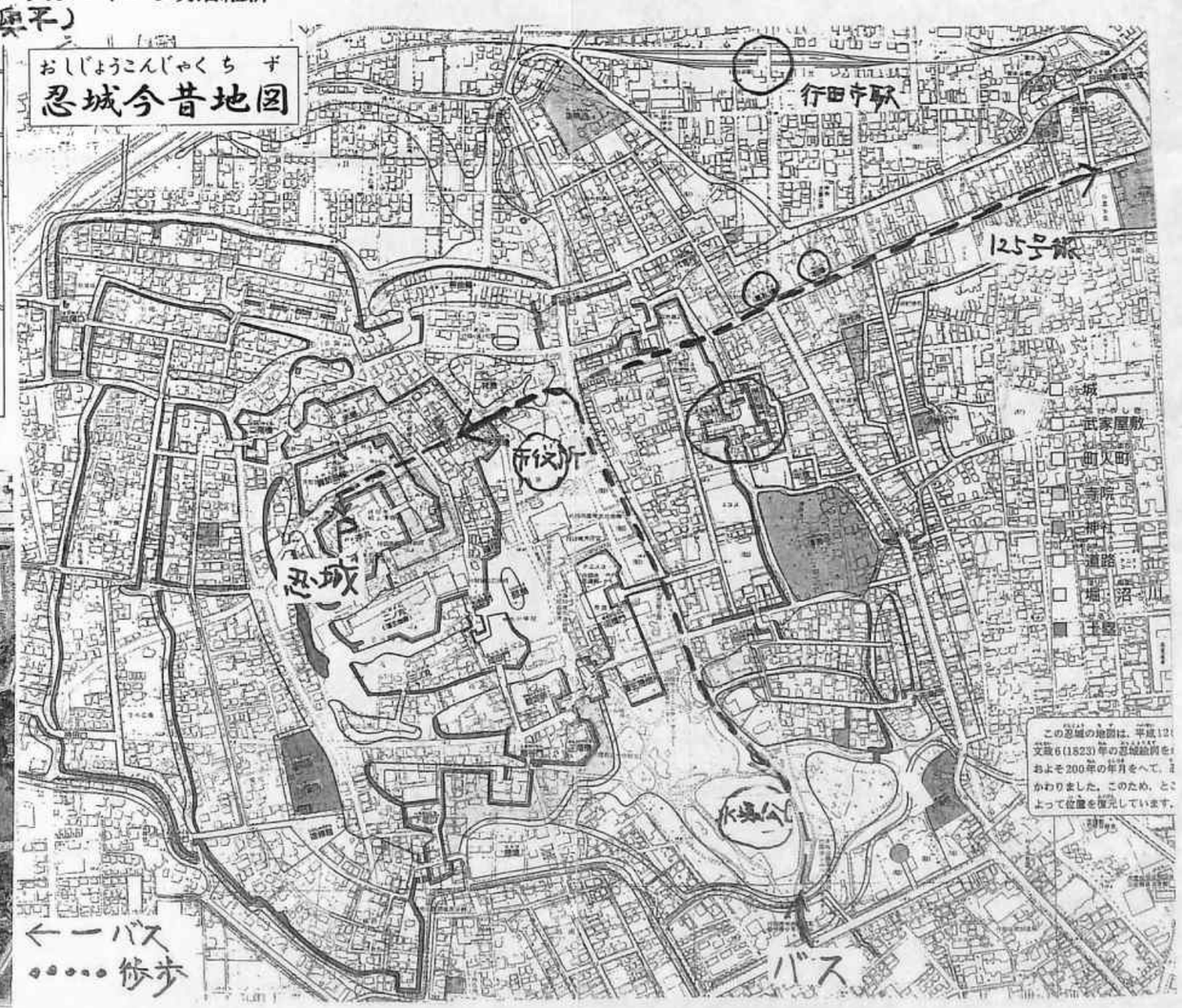
江戸後期の忍城絵図



天正18年の忍城「水攻め」



本丸周辺模型



忍の浮き城「忍城」　　ご案内時間７０分

1）　中山道脇往還の交通要衝、「総構え城下」を忍城めざす

①　忍宿は中山道、鴻巣からの脇往還で「日光裏街道」「館林道」などと呼ばれた。
　忍からは熊谷、館林、古河に通じた。

②　おおむね旧往還にそって「水城公園」へ、元忍城外堀湖沼でここからが城内
　(1)はじめ一帯は湖沼で、城は沼地に点在した島に築かれた。明治維新後次々と埋め立てられたが、一部が水城公園として保存されている。

③　かつての往還は迂回して忍城下へ、バスは旧城内水濠脇を直進、本丸跡の「郷土資料館」をめざす。
　(1)進行左側は水濠跡で右側は旧武家地、行田市役所も旧水濠埋め立て地、
　市役所前右100mに大手門、沼橋門から島づたいに３の丸、２の丸、本丸に進んだ

2）　本丸周辺の地形は一変し、面影はない ―― 博物館で降車、本丸、２の丸を回る

①　行田市郷土博物館駐車場で降車、はじめに２の丸諏訪曲輪を巡る（大森会長担当）
　(1)現在地と見学コースを「今昔地図」で確認
　国道１２５号線は本丸水濠跡、博物館は本丸、諏訪神社は２の丸諏訪曲輪跡

②　本丸水濠＝ほぼ当時の形状に復元されている。
　(1)土塁、白壁、狭間
　(2)忍城の鐘楼＝２の丸にあった鐘楼を復元、梵鐘は享保２年（1717）鋳造、城下に時を知らせた

③　御三階櫓＝博物館のシンボルとして旧３の丸の御三階を城門、土塀とともに再建、御三階は関東に多い天守代用櫓で、本来は飾り破風のない質素な造りだが、本来の位置と異なる地に異なる形で作った復興天守。

④　本丸大手道を歩く＝いまの復興土塁はかつて水濠跡でその先は２の丸、２の丸から本丸へ通じた。木橋が架かり奥に小振りの本丸門があった。

⑤　２の丸藩主御殿跡＝いまの行田診療所の所に門、忍中学校に校舎あたりに御殿があった。東から玄関、大広間、表向きと続き城主が居住した中奥は真ん中南側、家族が住む奥向きは西側に置かれた。
　(1)建物は間口48間、奥行き28間、総坪数608坪、畳755帖、廊下８、トイレ11、湯殿２などであった。
　(2)明治４年廃藩置県で忍県庁となるが４か月で廃止、明治６年廃城となり競売、635両で落札されたが以後の所在は不詳、現存していない。

⑥　模擬城門から改めて博物館に入る。博物館は本丸跡、かつて土塁白壁を巡らせたが建造物は無かったとする。南入り口の高麗門は藩校「進修館」表門で、向かって左の土盛りは本丸土塁の現存。
　(1)江戸初期は将軍専用の「お成り御殿」を置くか、その予定地ではないか

3）　「忍の浮き城」築城と水攻め、城下の変遷を紹介 ―― 博物館へ団体入館

①　行田市の歴史は
　(1)115文字の銘文が発見された埼玉古墳群に代表される古代の歴史と文化
　(2)忍城と城下町としての歴史と文化（中世、近世）
　(3)明治以降の基幹産業であった足袋製造
　の３つの特色があるという。ここではこれを４つのコーナーに分けて紹介している。

②　中世の行田（築城と水攻め）
　見どころ＝三成の水攻めはどのように行われたか、なぜ成功しなかったのか、最後まで抵抗する成田留守部隊の活躍ぶりなど

③　近世の行田（忍城の移りかわり、忍城、藩主とその時代、城下町のくらし）
　見どころ＝藩主が居住した２の丸御殿の模型、武家の備え、町の様子など

④　足袋と行田

⑤　古代の行田（狩猟から稲作へ、古墳の造営、古代から中世へ）
　見どころ＝古代の暮らし、銘文鉄剣、板碑などの出土品

⑥　御三階櫓模擬天守、最上階の展望台までどうぞ

4）　再びバス乗車、１２５号線の旧往還、城下跡をながめながら飛山城をめざす

①　国登録文化財「武蔵野銀行」＝大手門近い宿場の中心地で高札場跡

②　埼玉信用金庫、あさひ銀行周辺が本陣跡、代々樋口家が世襲した

③　忍川までが忍宿、積み込み弁当を楽しみながらバスは加須、古河へと進む

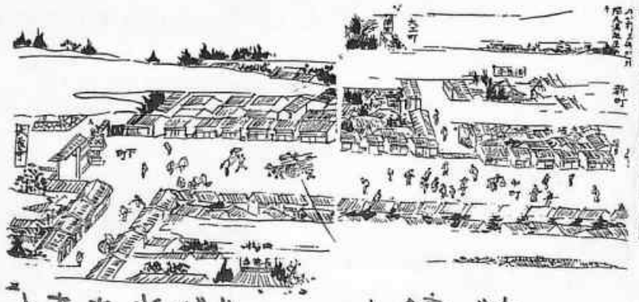
以上

大手門跡

本丸土塁

水城公園

御三階復興天守

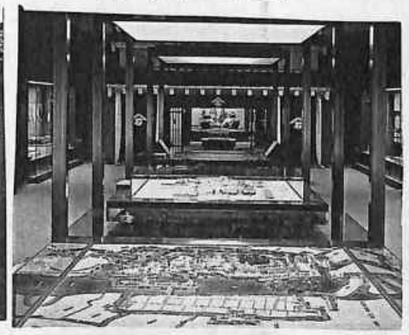


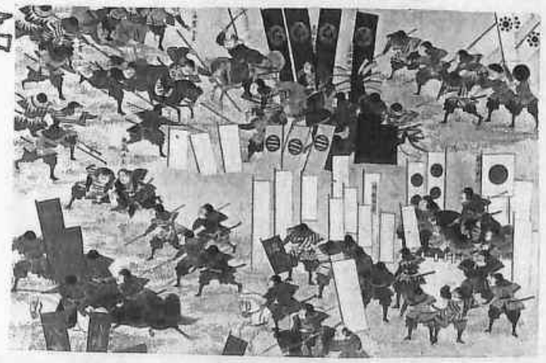
→忍宿図

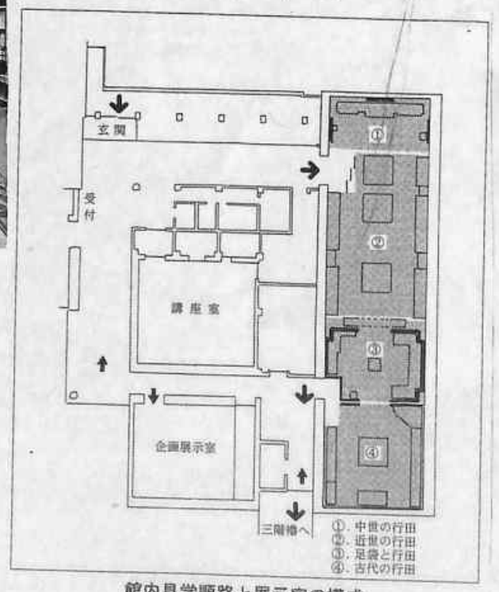
↓本丸水ボリ

↓鐘楼

郷土博物館



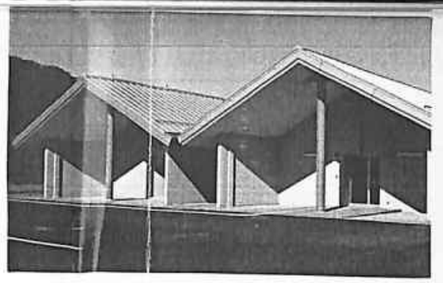


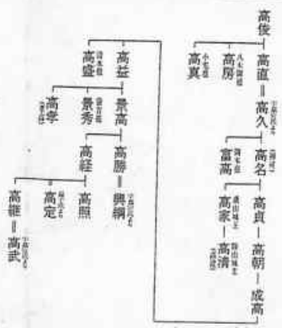


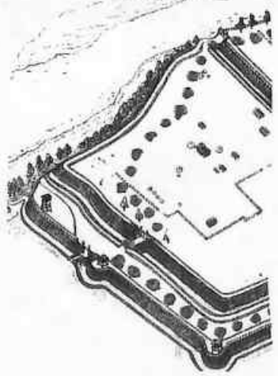
館内見学順路と展示室の構成

5月の定例会「南関東の３城を日帰りバスで訪ねる」

国指定史跡「飛山城跡」と「忍の浮き城」を歩く　　資料②







← 大手虎口

← 鬼怒川

← 真岡城（芳賀城）

プロローグ ―― はじめに宇都宮氏と芳賀氏

①

宇都宮氏＝下野屈指の名門、家伝は平安中期関白藤原道兼の曾孫で宇都宮座主に補任された宗円を祖とする。次の宗綱が宇都宮氏を称し、以後代々が武家として下野中央部、宇都宮地方一帯を支配した。小田原の役は豊臣秀吉に付いて所領を安堵されたが慶長２年（1597）に改易、理由に所領の過少申告など諸説がある。

②

芳賀氏＝宇都宮氏を支えた宿老中（有力な親類、家風層）重臣として活躍した武士団で、系図中３代が宇都宮家からの養子。真岡から氏家にかけての鬼怒川西岸ラインを掌握したが宇都宮氏の改易で滅亡した。

平成２１－５－１９

ID No.2-2

国指定史跡 飛山城跡（とびやまじょうあと）

指定 昭和52.3.8
追加指定 平成2.4.3

宇都宮市

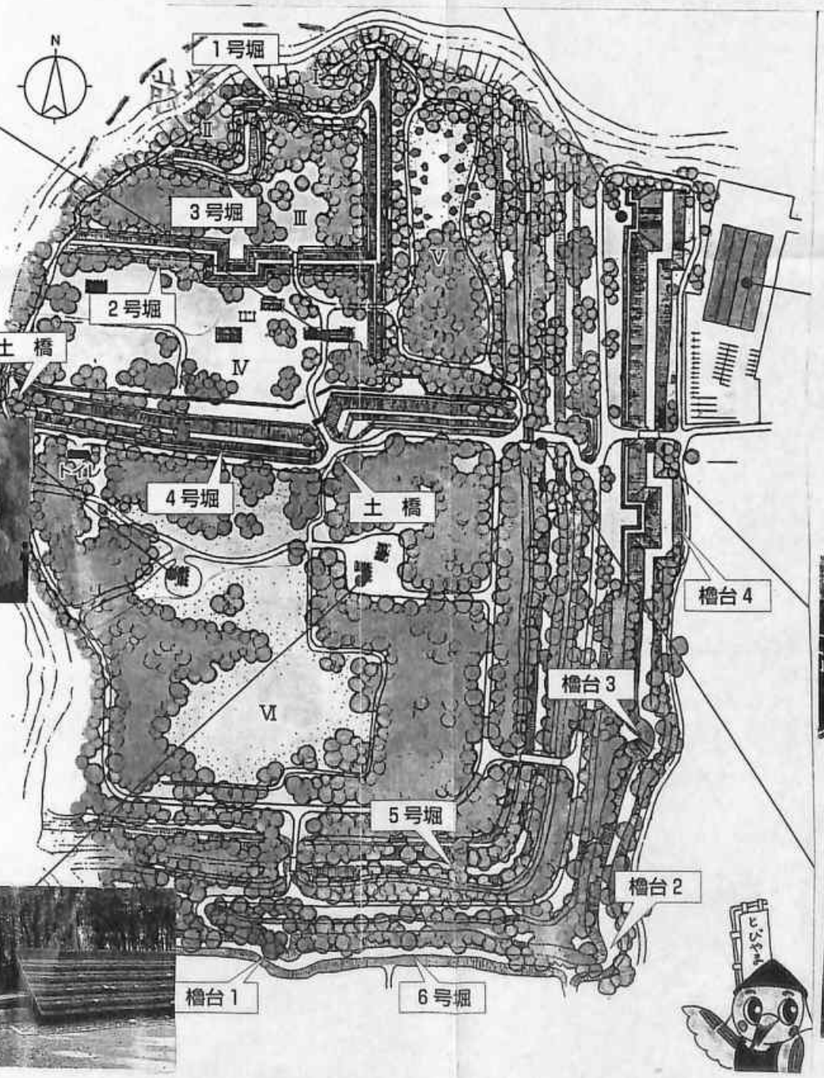
飛山城跡は、鎌倉時代の後半に宇都宮氏の重臣・芳賀高俊により築城されたと伝えられ、中世を通じて芳賀氏の重要な拠点として機能していました。

南北朝時代には北朝方に属したため、南朝方の攻撃を受け落城したこともあります。また、戦国時代には、宇都宮氏を支援する佐竹氏が在陣し、壬生氏に占拠されていた宇都宮城を奪還する前線基地となりました。1590年に豊臣秀吉の命令で廃城になったと考えられます。飛山城の南側と東側は二重の堀により、北と西は鬼怒川に面する断崖によって守られており、城内は堀や土塁でいくつかの曲輪に分けられています。

発掘調査によって掘立柱建物跡・竪穴建物跡・木橋等の遺構と、武器・武具・古銭・陶磁器等の遺物が出土し、その成果をもとに「飛山城史跡公園」として整備され、「とびやま歴史体験館」が設置されています。

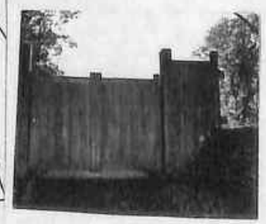
data

公開場所または施設所在地／栃木県宇都宮市竹下町３８０－１
「飛山城史跡公園」及び「とびやま歴史体験館」
交　通／JR宇都宮駅よりJRバス　運場宿経由清原台団地・相母井・茂木行きで「下竹下」下車徒歩10分



とびやま歴史体験館

大手虎口



鬼怒川段丘に立地する宇都宮一族、芳賀氏の居城「飛山城」

国指定史跡「飛山城跡」　　ご案内時間１００分

1）　鎌倉中期に築城した芳賀氏の拠点城

①　鎌倉時代後期、宇都宮氏の重臣・芳賀高俊築城という。中世を通じた芳賀氏居城で真岡などの支城をもつ。
　(1)南北朝時代の暦応２年、南朝・春日顕国と戦い、落城を体験
　(2)戦国時代の弘治３年、宇都宮城が壬生氏に奪われた時、芳賀高定が飛山城から宇都宮城を攻めて奪還

②　天正18年（1590）小田原征伐後、秀吉は宇都宮氏に不要城の破却を命令、飛山城は廃城になった。
　(1)小田原の役の前に芳賀高俊が宇都宮家と対立、攻められて落城したともいう

③　発掘調査の結果、掘っ建て柱建物、竪穴建物跡、木橋、武器、古銭、陶磁器などを出土、その成果をもとに「飛山城史跡公園」として復元、整備された。
　(1)昭和52年国指定史跡、平成２年追加指定
　(2)廃城直前に復元している

2）　鬼怒川河岸段丘に立地した「後ろ堅固の城」 ―― 飛山城の縄張りの特徴

①　鬼怒川河岸（かがん）段丘上に立地、からめ手側の北と西は比高30mの断崖、大手側の南と東に２重の空堀を回した梯郭式縄張り、「後ろ堅固の城」。

②　土の城。空堀と土塁で、主郭（本丸、２の丸相当）と３の丸相当部分を分け、前面に帯曲輪を配している。
　(1)帯曲輪は鉄砲を意識したといえる

③　空堀深さはおよそ３m、土塁６mほどで比高10mに近い。直線で折れ歪みはない。堀は箱型、版築土居で、二重土塁。模型は土壁を回している。

④　櫓台？が並列するが狭い、大手升形？も小さく模型は誇張では

⑤　きれいに復元されすぎ、中世城郭の荒あらしさがない

3）　「とびやま歴史体験館」で概要を知る（３０分）

①　バスは１３時ころ２番目の見学地、1、飛山城「歴史体験館」に到着

②　ビデオ映像「飛山城の歴史と概要」を鑑賞
　展示コーナーは飛山城全景模型、大手の戦闘シーン、とぶひ家墨書土器に注目

村岸からみた飛山城

↓のろし台

橋台から大手をのぞむ

大手へい塁内

4）　直線にのびる空堀と並列する櫓台 ―― 大手虎口から史跡公園へ（１km６０分）

①　整然とした直線の空堀、並列する櫓台が目を引く。
　(1)空堀は平底箱型、帯曲輪を含めた縄張りは火縄銃時代にふさわしい
　(2)空堀と土塁は直線、折れ歪みがない
　(3)前出模型は土塁上に土壁、狭間を刻む
　(4)櫓台がおよそ100mごとに並ぶ

②　大手虎口＝発掘調査で発見、復元された木橋。緊急時は落とす
　(1)門なしでよいか

③　小型升形＝土橋前面に設置、角馬出カ、実戦向けでない？

④　塀重門＝重要虎口にはめずらしく簡易

5）　はじめての復元？「のろし台」 ―― 帯曲輪から３の丸相当曲輪へ

①　帯曲輪＝最前面の帯曲輪は珍しい。城の目隠しカ、火銃による攻撃対策カ？

②　櫓台４（升形横矢カ）＝大手虎口からの進入を防ぐ横矢
　(1)井楼櫓を建てた？（升形横矢と呼んだ方が良さそう）
　(2)狭く集中砲火を浴びそうだ

③　櫓台３

④　Ⅵ郭（３の丸相当）に入る

⑤　夜間用緊急のろし台（推定復元＝写真参照）
　(1)本城（宇都宮城）や枝城（真岡城など）への緊急連絡用。およそ20kmごとに
　(2)昼はのろしだが、夜間は見えず火を焚いた鉄鍋を掲げた
　(3)古代竪穴建物を遠望、「とぶひ家」墨書土器出土

6）　天然の外濠「鬼怒川」の流れを遠望しながら回る ―― ２の丸相当から主郭へ

①　４号堀（二重土塁）＝後北条ではないが２重土塁。
　(1)二重土塁は空堀のかき上げ土を前後に積み上げる。後ろが高く前は低い
　(2)断崖の先端はとくに細工がない、単なる堀切り

②　美しい鬼怒川の流れを見ながら進む。比高およそ30mの河岸段丘立地を体感
　(1)落城に備えたからめ手＝ガケからの脱出路は？

③　２号堀から主郭のⅢ郭へ
　(1)復元、堀り返されていない２号堀、１号堀を目視観察
　　２号堀（内側がⅡ郭）、２号堀（Ⅰ郭）城主居住区でどちらかが本丸相当
　(2)Ⅱ郭、Ⅰ郭先端は崩落、欠落。現存部分で住居跡は確認はされていない

④　将兵詰め所、４号堀土橋から大手虎口へ戻る。

⑤　バスは宇都宮から国道４号線＝旧東北街道を南下、最後の目的地「逆井城」をめざす。

以上

6号堀の枝矢

現存状態の5号堀

復元された4号堀

←2の丸(Ⅴ郭)の全景